

# 園長だより

月日の経つのは早いものです。あと数日で新しい年を迎えます。今年こそはと、抱えきれないほどの目標を立てていたものの・・・

ほんの少しばかりの達成率

子ども達の安全、安心な生活を第一に考えてきました。擦り傷、切り傷、たんこぶは日常のことでしたが大きなケガもなく、安堵しています。ただ油断は禁物です。事故のない安全な生活の条件として、適度な緊張と子ども達の命を守っているという意識の維持継続が大切と考えます。



## 子ども達の安定は 保育者のこころの安定から

ここ数年、実践されている保育内容を吟味しています。現在も進行形で進んでいます。

毎年慣例的に行われている行事、活動も再度、意味合いを考え、取り組んでいる内容が子ども達にとってより良い位置付けになるようにと考え実践に結びつけています。

開園して15年が経ちます。多くの保育者が従事しおぞら保育園の文化、保育内容を作ってきました。

試行錯誤の時期からはじまり、数年をかけた保育内容の定着化、そして現在は子ども主体の活動が展開されるような保育を描き、取り組んでいる過渡期にあると言えます。毎年繰り返し、慣例的に行われているものを

当たり前と考え、取り組んでいる場合、保育者の思考は停止状態です。

それぞれの保育者が「こうなったらいいな」「こんな取り組みをしたいな」子ども達のためにいろいろと頭を悩ませることがとても大切と考えています。既成の概念や保育方法を取り入れている保育は、保育者の思考は育たない。マニュアル通りにこなしていれば尚更、自分の考えを持つ機会が少ない、

自分の考えを持つ、または思考途中の思いを表出することが保育者の主体の第1歩ではないだろうか。

考える、思考して保育をする機会を多く持つことはマニュアル通りにやる保育に比べ、苦労も多い、苦悩も多い

だからこそ保育者のこころの安定が求められる。早期教育を売りにしたり、知能開発のためのプログラムをこなしている保育園や幼稚園、それはそれで従事している保育者の苦労があるだろうが子ども達の育ちに即し、考え、思考して保育内容を生み出していく苦労、苦悩とは異なる。

今、取り組んでいることが現在、そして近い将来に繋がり、子どもの育ちに反映できることに胸を張りたい、張ってもらいたいと思っている。(まだまだ多くの課題はありますが)より良い保育を考え、実践している過渡期が故、つまずきもある。つまずきも新たな道への招待状と思いたいものです。

保育士のこころの安定、こころの持ちようで好転できる。子ども達のためと思えば、大変さもやわらぎ自身の肯定感を育めること

につながると考えています。

## 「貨物列車ごっこから」園庭にて

自らが電車になりきる。電車が好きな男の子とのエピソードです。

貨物列車しゅしゅしゅ ♪

私は時折、ここ最近頻りに貨物列車ごっこに付き合い遊んでいる。傍から見ると単に和気あいあい戯れている程度にしか見えな

いかもしれない。子ども「えんちょう 貨物列車を走らせます」園長「貨物列車ですか わかりました。」

「貨物列車出発いたします。そろそろ出発です。ドア締まります。出発！」

私の出発合図で園庭を一周する。戻ってくるとまた、私のアナウンスがはじまる。

園「ドア締まります。 出発！」

このようなやりとりを40分程。

何度かやっていると遊びも変化する。様々なやり取りと思考がある。

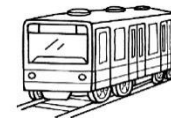
子「貨物列車になにをつむの？」

園「そうですね。果物はいかかですか」

子「ばななですね」

園「ばななをつみますね」

子「りんごもお願いします」



園 背中をなでて「積み終わりました。」

「そろ、そろ出発します。プルルル」

私の合図で園庭を一周し、また戻ってくる。このようなことを30分程度繰り返し遊ぶ。別の日、やり取りに変化、私が駅員になり出発合図プルルルと言っていれば良かった状態から徐々に変化します。

2018.12.26

子「貨物列車にコンテナを連結して下さい。」

園「コンテナは何個ですか」

子「二つにして下さい。」

男の子の背中を2回なでる。

園「コンテナ連結完了です。出発！」

園庭を一周し戻る

子「貨物列車 到着、こんどはタンクを連結して下さい。」

園「わかりました タンクを連結します。」

こんなやりとりを数十分続け、その後

子「えんちょうも連結です」

園「・・・」

子「肩に手を置いて つかまって」

園「園長も貨物列車ですね」

「それでは出発！」 つながって走る

園「貨物列車たのしいですねー」

子「 たのしいねー もっと走るよ 」

単純なやり取りから徐々に楽しさの追求へあそび込む中で思考回路がぐるぐるまわり、思いや要求が出てくる。楽しんでやっていたら、より楽しくする工夫が出てくる、傍に寄り添い、一緒に遊ぶ大人も変化を感じ、その変化に寄り添う、保育園で起こる面白いこと、楽しいことだと感じる心に年齢は関係ない。年明けからの遊びが待ち遠しい「またあそびましょう！」 「出発進行！」

保護者の皆様、保育へのご理解ご協力ありがとうございます。

来年も宜しく願い致します。

(園長 廣部 信隆 27)